



日時	11月6日(土) 10:00~11:50
会場	鶴瀬公民館 第3集会室
講師	早坂 廣人氏 難波田城資料館・学芸員
受講生	17名

1. 農業史の視点

講義の冒頭に、農業の歴史の視点を明確にされた。

農業とは、人にとって有用な植物栽培で、栽培対象の植物(作物)、栽培する土地(農地)、栽培技術、栽培する人と社会的な変動が関連しあいながら変化をして来た。

- ① 栽培植物(作物)
- ② 農地と環境
- ③ 農業技術
- ④ 農業経営(社会制度)
- ⑤ 生業内の位置づけ
 - ・ 社会相対・地域・経営体で分類
採集狩猟社会→農業社会→産業社会
 - ・ 農業の経営による分類 農業が従 自給農業
商業的 農業 分業
 - ・ 従事者 性別 年齢



講師 早坂 廣人氏

2. 縄文時代の植物利用

縄文時代の農耕の有無や程度については長年論争がある。仮説民族モデル
反論は微化石混入

- ・主食については明確でない、たんぱく源、豆類（土器圧痕からツルマメ、ダイズ、ヤブツルアズキ、アズキ）やシソ、エゴマの栽培が明らかになった。主食ではないが栽培か？もある
 - ・水子貝塚（約6000年前）の土器圧痕 シソまたはエゴマ
 - ・野生植物→栽培植物 栽培化、大型化
 - ・土堀り具は打製石斧や堀り棒
 - ・集落内栽培？ 中期たんぱく源？
- 写真資料：水子貝塚のシソ属圧痕多量土器片（2021年）



3. 弥生時代～古墳時代の農業

- ① 農耕の始まり BC900年頃、九州に伝わる。水稻と畑作はアワ、キビなど
- ② 東日本 BC600年頃、アワ、キビ栽培
- ③ 東日本 BC400年頃、イネ伝わる
- ④ 関東 BC200年頃、本格的な稲作伝来
- ⑤ 南通遺跡の炭化米、志木市田子山遺跡の炭化種実

(カロリー比で米：粟＝10：3)

- ⑥ 日本型の農耕文化 水稲主体、たんぱく源は米と魚
- ⑦ 市内遺跡は6世紀まで水谷・南畑地区
- ⑧ 谷津田、湧き水利用の灌漑？ 集落は台地上、後に低地にも進出
- ⑨ 農具は刃先のみ鉄製で柄などは木製
- ⑩ 5世紀には牛馬が定着するが普及はまだ。麦類の普及

図表：縄文時代中期遺跡分布、弥生から古墳時代の遺跡分布



4. 古代の農業～班田制の理想～

645年 乙巳の変

- ・班田制 6年ごとに戸籍を編成、班田の割り当てやり直す。
盛行期は奈良時代。
- ・722年 百万町歩開墾計画（農地倍増計画）
- 723年 三世一身法 開墾奨励のために時元的私有を認める。
- 743年 墾田永年私財法 私有を認め、課税
条里プラン（方格地割り） 奈良中期から普及、

図表：大久保条理の想定範囲及び周辺の遺跡 明治18年測量の迅速図
吉川國男氏制作、大窪郷の耕地別面積と年貢

- ・7世紀中ごろ、鶴馬地区に集落出現
- ・水谷、南畑、勝瀬にも集落跡
- ・谷津遺跡15号住居跡の炭化種実（5種を写真で紹介）

図表：弥生～平安、飛鳥時代後半～平安時代前半遺跡分布

- ・遺跡に残る鉄器が増える。
- ・馬が各集落に？

5. 中世の農業～荘園と名

- ・平安時代の課税単位は「名」元来「戸」が単位
- ・経営能力や災害などで格差拡大
- ・災害地の再開発をした場合は私有地となり、私有地が次第に増加。
- ・地域の有力者は在地地主
- ・免税の為などで寺社、中央貴族に寄進して荘官に、領主の多層構造
- ・戦乱や飢饉が多く、可耕地に比べて人口は低位にとどまる。条件の良い地域に動く、流動的社会
- ・鎌倉時代ごろから二毛作が広がっていく。東国では畑二毛作が主
- ・二毛作には施肥が必要で、一番入手し易いのは草肥、草刈り場
- ・粉食の普及 石臼、こね鉢、うどん
- ・「大窪郷地頭方三分之一田畠注文」
- ・戦乱により農民も武装、村を守るために結集、納税も村単位、これが「郷村」

図表：結集板碑（1484年） 戦国時代郷村分布推定図

- ・品種改良や馬・武器の普及が進む
- ・16世紀に木綿が伝来
- ・戦乱とともに領主権は単純化、大名の力が強まると新領地を検地
「後北条所領役帳」より鶴間、難波田、水子、葛袋など貫文単位

図表：富士見市付近の農耕変遷イメージ 縄文から現代まで

図表：主食穀物の校正変化概念図（全国）

図表：昭和初期の麦飯の配合、昭和6年度農業生産物移出入調

